

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

東京都 日野市

自治体名：東京都日野市

担当課名：教育委員会 教育部 教育指導課

電話番号：042-514-8728

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	27.53 km ²
人口	187,486 人
公立中学校数	8 校
公立中学校生徒数	4,313 人
部活動数	70 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	令和4年度に設置済み 「日野市地域文化スポーツ連携協議会」
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現状】

令和4年度、本市は教育委員会に加え、スポーツ・企画部局、地域企業、スポーツチーム、大学、団体が参画する「日野市地域スポーツ連携協議会」を発足。持続可能な地域スポーツの運営基準、人材・財源確保について協議を進めた。令和5年度には、「ひのスポ！」「ひのカル！」の拠点校・種目拡大、地域クラブの運営基準策定、人材確保、受益者負担や寄付・協賛を含む財源確保の検討を行い、持続可能な地域文化・スポーツ環境の構築を目指した。

【課題】

統括団体の設置

令和4年度に設置された「日野市地域スポーツ連携協議会」（令和5年度より「日野市地域文化スポーツ連携協議会」）は、教育委員会が主体となり運営を継続している。しかし、持続的な事業運営と財源管理のため、法人化を検討し、自立・自走できる統括団体の設置を目指す。

連携団体の拡大

市内約4,300名の中学生を対象に、持続可能なスポーツ環境の確保を進めた。令和5年度上半期には「ひのスポ！」I型を拠点校で本格実施し、下半期には地域スポーツ教室や習い事と連携した連携II型を導入。運営条件や責任を整理し、令和5年度の実績（I型14種目・連携II型2事業者）を基にさらなる拡充を進める。

休日の学校部活動（教員負担軽減）への取組み

教員は現在も休日の学校部活動を継続しており、負担軽減につながりにくい状況が続いている。そのため、学校と連携し、「ひのスポ！」が休日の部活動を補う取組みを推進する。また、全教員を対象にアンケートを実施し、ニーズや課題を把握し、効果的な負担軽減策を検討する。

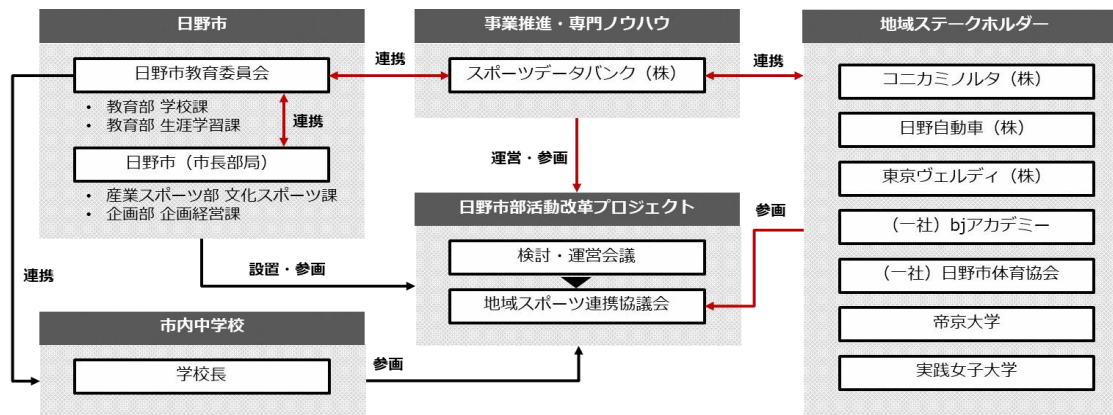
外部資金の獲得

受益者負担の軽減を目的に、企業版ふるさと納税を活用した寄付受け入れの準備を進めている。首長部局（企画部等）と連携し、受け入れスケジュールを検討。持続可能な資金調達体制の構築を目指す。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（教育部 教育指導課）

本事業の主管課・方針の決定

◎首長部局（産業スポーツ部 文化スポーツ課、企画部企画経営課）

教育委員会との連携・財源確保・条例等の見直し

年間の事業スケジュール

令和6年	4月	拠点校の選定 / プログラム実施準備
令和6年	4月	ひのスポ！ひのカル！周知チラシの配布
令和6年	4月	教員対象アンケート実施
令和6年	5月	ひのスポ！ひのカル！奨学金事業利用者募集
	5月	部活動検討委員会
令和6年	6月	拠点校での「ひのスポ！」実証の開始
	6月	ひのスポ！ひのカル！奨学金事業利用開始
令和6年	7月	部活動検討委員会
令和6年	8月	教員対象アンケート実施
令和6年	10月	第8回日野市地域文化スポーツ連携協議会の開催
	10月	部活動検討委員会
令和6年	12月	部活動検討委員会
令和7年	2月	拠点校での「ひのスポ！」アンケート実施
	2月	次年度計画の決定
	2月	第9回日野市地域文化スポーツ連携協議会の開催
	2月	事業完了報告書・成果報告書等作成

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	8校	実施した地域クラブ総数	5クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0クラブ（0部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		5クラブ
全体の指導者数	20人	全体の運営スタッフ数	4人

②各クラブに関すること

中学校名	クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施 時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者 数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方 法
日野市立平山 中学校	ひのスポ！卓球	日野キングフィッシャーズ 日野市体育協会	卓球	平日 0回 休日22回	土曜 16:00～ 18:00	(前期) 中1：13人 中2：14人 中3：1人	7/20(土)～ 10/21(土)	10人	3人（内、兼務 3人）	800円 /年額	地域クラブでの 参加なし
						(後期) 小6：1人 中1：8人 中2：10人 中3：1人	11/2(土)～ 3/15(土)				
日野市立日野 第三中学校	ひのスポ！3人 制バスケットボー ル	東京ヴェルディ・3人制 バスケットボールチ ーム	3人制 バスケット ボール	平日 0回 休日19回	日曜 8:30～ 10:30	小5：0人 小6：2人 中1：2人 中2：4人	8/25(日)～ 3/30(日)	6人	3人（内、兼務 3人）	800円 /年額	地域クラブでの 参加なし
大坂上中学校	ひのスポ！ハンド ボール	東京日野ジュニアハ ンドボールクラブ	ハンド ボール	平日 0回 休日 4回	日曜 13:00～ 15:00	小5：4人 小6：2人 中1：4人 中2：1人	9/15(日)～ 12/1(日)	8人	3人（内、兼務 3人）	800円 /年額	地域クラブでの 参加なし
日野市立日野 第一中学校	ひのスポ！男子 バスケットボール	東京八王子ビートレ イズ	男子バ スケット ボール	平日 0回 休日 9回	日曜 15:30～ 17:30	中1：15人 中2：13人	10/20(日)～ 2/16(日)	4人	3人（内、兼務 3人）	800円 /年額	地域クラブでの 参加なし
日野第四中学 校	ひのスポ！バドミ ントン	日野市バドミントン連 盟	バドミ ントン	平日 0回 休日 7回	日曜 16:00～ 18:00	小5：3人 小6：2人 中1：13人 中2：22人	12/22(日)～ 3/30(日)	8人	3人（内、兼務 3人）	800円 /年額	地域クラブでの 参加なし

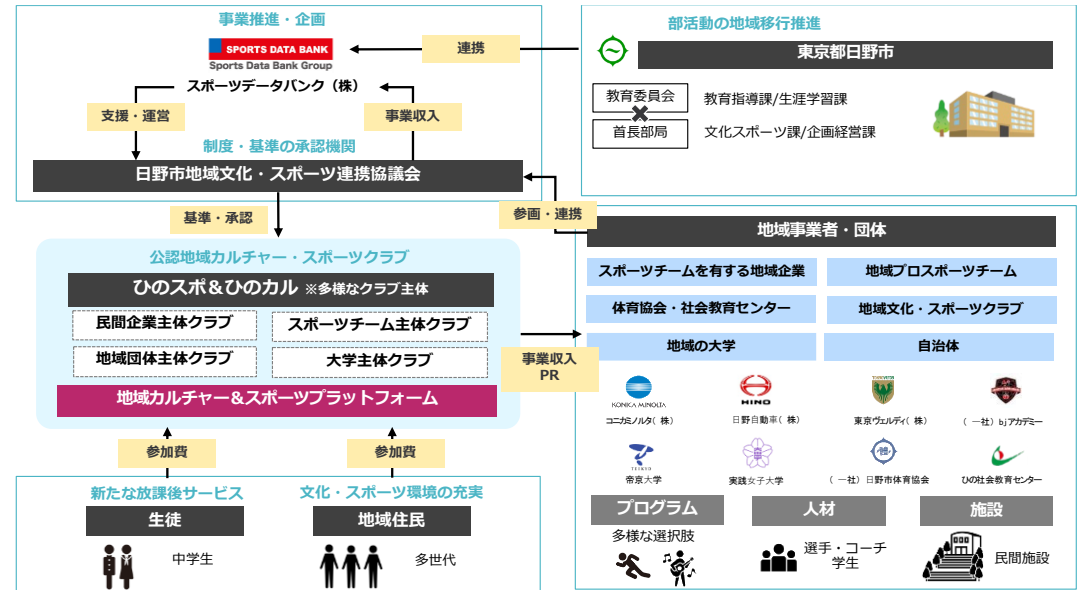
2.実証内容と成果

主な取組例

● 日野市型地域移行モデル ひのスポ！ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	卓球／3人制バスケ／ハンドボール／男子バスケ／バドミントン
運営団体名	日野キングフィッシャーズ・日野市体育協会／東京ヴェルディ・3人制バスケットボールチーム／東京日野ジュニアハンドボールクラブ／東京八王子ビートルズ／日野市バドミントン連盟
期間と日数	種目ごとに設定
指導者の主な属性	民間指導団体
活動場所	学校体育施設
主な移動手段	保護者の送迎、徒歩、公共交通機関
1人あたりの参加会費等（年額）	800円（税込み）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

事業総括責任者（プロデューサー）

事業推進にかかる監督・指揮、企画立案及び各種助言

統括責任者（ディレクター）

事業進捗管理、制度構築、会議設置、企画提案・推進 等

事業主任担当者（コーディネーター）

実証にかかる各種調整、人材確保、運営管理、会議サポート 等

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

協議会の法人化を目指し関係団体と協議を進めた。また、運営基準「ひのスポ！コード」を策定・運用の準備を進めた。ICTツールを活用し、出欠管理や会費徴収、連絡調整を効率化。地域クラブの運営においては、コーディネーターを配置し、中学校や運営団体との連携強化を図った。以上の取組により、地域クラブの持続可能な運営体制の構築に向けた基盤整備を進めた。

取組の成果

各種目の指導団体との連携を強化し、地域クラブとしての基盤を確立した。卓球（前期・後期）は日野市体育協会・日野キングフィッシャーズと協力し、初心者向け指導を充実させ、継続的な参加者増加を実現。3人制バスケットボールは東京ヴェルディと連携し、専門指導を導入することで新たな層の関心を引き付けた。ハンドボールは東京日野ジュニアクラブと協力し、未経験者でも参加しやすい環境を整備。男子バスケットボールは八王子ビートレインズと連携し、技術向上と競技人口の拡大に貢献。バドミントンは市バドミントン連盟と協議し、過去最高となる定員30名に対し66名の応募があったため、指導者の確保とあわせて受け入れ枠を40名に拡大し対応。これにより、各種目で20名以上の参加者を確保し、学校部活動では実施が難しかった種目を地域で展開。地域クラブとしての基盤を強化し、多様なニーズに応えた。



今後の課題と対応方針

今後の課題として、参加者数が増減する種目への指導者の安定確保、持続可能な運営体制の構築が挙げられる。バドミントンは昨年度は定員割れしていたが、今年度は定員を超える応募があり、受け入れ枠拡大が求められる。そのため、指導者のさらなる確保と、練習環境の整備が必要となる。対応方針として、地域スポーツ団体との協力強化や、指導者養成

プログラムの導入を進め、安定した指導体制を整える。また、ICTツールの活用拡充により運営負担を軽減し、より多くの生徒が参加できる仕組みを構築する。これにより、地域クラブ活動の持続可能な運営と、さらなる競技人口の拡大を目指す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

市独自の人材バンク設置に向け、地域関係団体・企業・大学へ登録協力を依頼し、検討を進めた。また、教員の兼職兼業に関し、教員ニーズを把握する調査を実施した。指導者の認証基準については、e-Learningを活用した研修を拡充し、「ひのスポ！コード」に基づく指導者基準の明文化を行った。これらの取組を通じ、適切な人材の発掘・育成・配置を進める基盤を整えた。

取組の成果

ひのスポ！コード（認証制度）

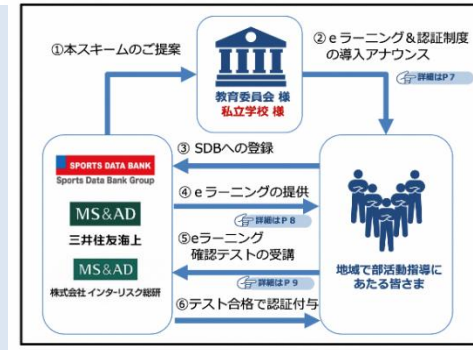
地域クラブ活動運営ガイドライン

認証項目

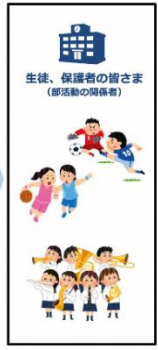
認証項目	ひのスポ！コードの認証	ひのスポ！コードの認証	認証基準
A：専業主婦への理解			
□ 1 ひのスポ！コードの取組を説明している	○ 必須	○ 必須	ひのスポ！コードの取組
B：指導者の管理体制			
□ 2 地域クラブ活動に適切な指導者を選任し、配置等の管理、運営が可能な体制がある	○ 必須	△ 推奨	指導者リスト
□ 3 指導者のプロフィールを事前に開示することができる	○ 必須	△ 推奨	指導者プロフィール開示書
□ 4 管理団体と指導者の契約書を取り交わしている	○ 必須	△ 推奨	契約書の写し
C：アガサエーの運用体制			
□ 5 地域クラブ活動の運営において、経験の有無を踏まえ指導者が選任できるシステムを構築している	○ 必須	△ 推奨	指導者プログラム表
□ 6 各地域クラブ活動の実施計画を事前に開示し、実行、終了することができる	○ 必須	△ 推奨	指導者マニュアル表
D：資金管理の体制（1）			
□ 7 地域クラブ活動の運用にあたり、専任職員に対応できる体制を確保している	○ 必須	△ 推奨	指導者マニュアル表
□ 8 専任職員が担当した場合は契約書について、確認を交わしている	○ 必須	△ 推奨	指導者マニュアル表
□ 9 専任職員として、のりこめに関するルール、規定を制定している	○ 必須	△ 推奨	指導者マニュアル表
□ 10 のりこめに関するルール、規定を制定している	○ 必須	△ 推奨	指導者マニュアル表

+

e-Learning
研修制度



- 指導者の知識向上による安全
- 指導者の認証情報開示による安心



指導者研修の内容

指導者向け教育・認証サービス

主な内容

- 自然災害への対応
- 救急処置・救護
- 防犯
- コンプライアンス・ハラスメント
- メンタルヘルスマスター
- 個人情報保護
- 女子学級（SDG&SDG）

方法

e-learning（オンデマンド）
30～60分 / 各項目

研修

研修	主な内容	時間
研修①	・ 事業背景と趣意・目的の理解	60～90分
研修②	・ 指導者に対する目的の理解 ・ 活動以外の対応、活動における安全管理対応	60～90分
研修③	・ 学校（管理職・顧問教員）、保護者の評価 ・ 指導内容・計画の確認 ・ 地域活動指導者の事例共有	60～90分 ※2～3回/年間

受講者の声

「合計2時間を超えて、オンラインで受講する研修は、兼業で指導に当たる立場としては負担が大きいですが、研修内容は実用的で指導者としては必須のものだと思う」

今後の課題と対応方針

連携Ⅱ型の拡充が課題であり、指導者の確保と質の向上が不可欠となる。そのため、「ひのスポ！コード」の運用強化を図り、適切な基準に基づいた指導者の育成を進める。また、地域事業者との連携を拡大し、次年度以降のプログラム提供を円滑に実施する。

指導者確保のための周知強化として、市公式ホームページやSNSで募集情報を発信するとともに、地域企業・大学・スポーツ団体への直接アプローチを行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

地域クラブの主体的運営を促進する「連携Ⅱ型」の拡充に向け、地域ステークホルダーとの連携強化と募集を実施した。また、企業・団体・大学等が参入するメリット（学校施設の活用等）を把握し、持続可能な連携体制の構築を進めた。さらに、体育協会との連携を強化し、市地域指導者のマッチングや協会主催の育成事業・教室との連携を推進した。これらの取組により、地域スポーツの発展と継続的な支援体制の確立を図った。

取組の成果

各競技での指導環境強化のため、企業・スポーツ団体との連携を拡大。協議会委員である帝京大学からは、大学生の指導者育成・派遣の提案があり、今後の指導者確保に向けた協議を進める予定。卓球では、日野キングフィッシャーズと市体育協会が継続的に連携して初心者・経験者向け指導を分離し、競技力向上を支援した。東京ヴェルディ（3人制バスケ）は、専門指導との練習試合を組み込み、参加者増加を図った。東京日野ジュニアクラブ（ハンドボール）は、未経験者の受け入れ体制を整備。八王子ビートレイズ（男子バスケ）は、競技力向上プログラムを実施。日野市バドミントン連盟（バドミントン）は、66名の応募を受け、指導者を追加確保し40名受け入れを実現。企業版ふるさと納税の活用を検討した持続的な財源確保も進行中である。



今後の課題と対応方針

課題として、①指導者の安定確保、②人気種目の受け入れ拡大、③持続可能な財源確保が挙げられる。指導者不足解決に向け、市体育協会との連携を進め、地域指導者育成・派遣を推進。バドミントンのような応募多数の種目は、指導者追加確保が今後の課題となった。また、企業版ふるさと納税の活用を具体化し、企業や地域団体との検討を継続。安定した指導体制と継続的な運営基盤を構築し、地域クラブ活動のさらなる発展を目指す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

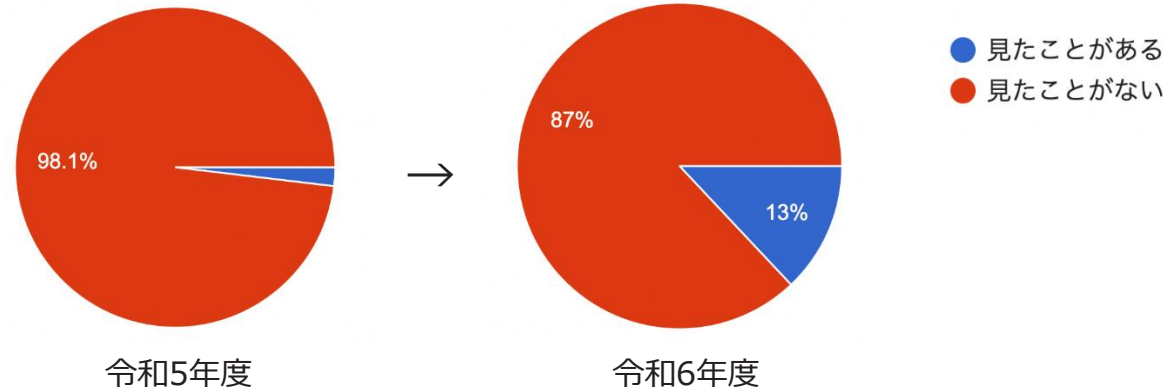
取組事項

日野市の地域クラブ活動の現状を「ひのスポ！ひのカル！」専用WEBページで発信し、周知を強化した。また、チラシ添付によるメール配信を通じて情報提供を行った。日野市立学校の生徒向けに学習者用端末へ登録された「ひのスポ！ひのカル！」専用WEBページについて、令和5年度の実証終了後のアンケートでは、生徒の95%が認知しておらず、98%が閲覧したことがない状況であったが、令和6年度と同アンケートから、認知していない生徒が81.5%、閲覧したことがない生徒が87%と、それぞれ認知拡大の改善が見られた。

取組の成果

【生徒向け実証後アンケート結果から】

学習者用端末にあるブックマークから、「ひのスポ！ひのカル！」WEBページを開いて、見たことがありますか



今後の課題と対応方針

令和6年度の調査で認知度は向上したものの、依然として多くの生徒が「ひのスポ！ひのカル！」専用WEBページを認識・活用していない。情報発信の手段や効果的な周知方法のさらなる改善が求められる。学校との連携を強化し、学習者用端末の活用促進を

図る。また、SNSや動画コンテンツを活用し、生徒が興味を持ちやすい発信方法を検討する。また、「ひのスポ！ひのカル！」募集の際に、WEBページのみならず、チラシを作成して学校に掲示するなど、認知度と利用率の向上を目指す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

令和5年度地域団体と連携し、従来の学校部活動の枠を超えた多様な種目を体験できる環境の基盤を整えた。「ひのスポ！」の参加者、保護者、指導者を対象に終了時アンケートを実施し、ニーズを把握した。さらに、「ひのスポ！」「ひのカル！」の募集時に、参加者の関心を引くチラシを制作し、広報を強化した。これにより、生徒の多様な興味に応じた活動機会の提供を推進した。

取組の成果

3人制バスケットボールは、学校部活動にはない新たな選択肢として導入され、競技の普及と地域クラブの充実に貢献した。東京ヴェルディと連携し、専門的な指導を実施するとともに、対外試合や試合観戦イベントを組み込むことで、競技理解と参加意欲の向上を図った。また、初心者向けプログラムを整備し、未経験者でも参加しやすい環境を整備した結果、新たな層の参加を促進。

一方で、他競技と比較して参加希望者が想定を下回る課題が見られたため、追加募集の実施や広報活動の強化が必要と判明した。今後は、体験会の開催や指導者の魅力を伝えるコンテンツの発信を進め、競技の認知度向上と参加者増加を目指す。



今後の課題と対応方針

今後の課題は①参加者数の増加、②指導体制の強化、③広報活動の充実。3人制バスケットボールは学校部活動にない競技として導入されたが、参加希望者が想定を下回り、追加募集と認知度向上が必要。対応方針として、体験会の定期開催や試合観戦イベントを活用し、競技の

魅力を発信。また、東京ヴェルディと連携し、初心者向けプログラムを強化し、参加ハードルを下げる。さらに、SNSや学習者用端末を活用した広報活動を強化し、潜在的な参加者層へリーチを拡大。これらを通じて、競技の認知度向上と参加者増加を目指す。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

地域クラブに係る経費 持続的な運営に必要な受益者負担額の試算 収支バランス

「女子バスケットボール前期」の運営を受益者負担で賄うシミュレーション例（2024年10月1日（火）に開催した「第8回 日野市地域文化スポーツ連携協議会」資料より）

- ・ 年間36回実施で、参加人数30人から、月謝（月会費）2,000円のほか、参加費（年会費）800円を徴収する場合
- ・ 種目（クラブ）単体での収支試算とし、統括団体の事務運営費（地代家賃、人件費等）は除く

収入	科目	単価（円）	数量①	単位	数量②	単位	小計（円）	備考
1	月謝（月会費）	2,000	30	人	12	ヶ月	720,000	
2	参加費（年会費）	800	30	人	1	年度	24,000	保険料実費相当
収入合計							744,000	

支出	科目	単価	数量①	単位	数量②	単位	小計（円）	備考
1	保険料（参加者）	800	30	人	1	年度	24,000	スポーツ安全保険を適用した場合として試算
2	保険料（指導者）	1,850	2	人	1	年度	3,700	スポーツ安全保険を適用した場合として試算
3	研修費	6,600	2	人	1	年度	13,200	Eラーニング研修を適用した場合として試算
4	謝金（指導者）	6,000	2	人	36	回	432,000	前期全16回開催で設定、1回あたり3,000円x2時間
7	消耗品費	4,000	1	セット			4,000	救急セット等
10	人件費（事務局）	5,000	5	時間	12	ヶ月	300,000	事務局員1.5名分、月5時間稼働で試算
11	雑費（諸手続等）	1,000	5	ヶ月			5,000	保険加入手数料、銀行振込手数料等
支出合計							781,900	
収支							-37,900	

【A】参加者一人当たりの負担額 : 月会費24,000円（2,000円x12ヶ月）+ 年会費800円 = 24,800円 / 12ヶ月 / 36回（689円 / 1回）
 【B】最低催行人数 : 32人以上

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

令和5年度後期より、800円（保険料相当）の参加費を徴収開始し、令和6年度も同設定での受益者負担を継続した。

所得格差による機会損失を防ぐため、就学援助世帯の参加費支援対策として、令和5年度「ひのスポ！ひのカル！」連携Ⅱ型を対象とした奨学金に加え、令和6年度はⅠ型の参加費800円も対象として拡充して支援を実施した。

新たな財源確保の手法としては、参加者費用負担の支援への企業版ふるさと納税の寄付制度整備について議論を進め、外部資金の活用を目指した。

取組の成果

奨学金制度の拡充と一定数の利用者確保
令和5年度の「ひのスポ！ひのカル！」奨学金制度では、連携Ⅱ型（既存プログラム紹介型）に加え、自主開催型（Ⅰ型）の800円参加費も免除対象とした。その結果、Ⅰ型では50名定員に対し16名が利用し、一定の支援効果が見られた。

奨学金の利用率における課題の発見
Ⅰ型と連携Ⅱ型で利用率に大きな差が生じ、特に連携Ⅱ型では利用者がゼロであった。制度の周知方法や、連携Ⅱ型の利用者層における経済的支援のニーズについて検証が必要と判断された。

今後の課題と対応方針

奨学金制度の改善
Ⅰ型の奨学金利用者は定員50名に対して16名、連携Ⅱ型では定員10名に対して0名と利用者がゼロであり、背景の分析が必要である。利用者層のニーズを把握するためのアンケート調査を実施し、経済的支援が必要な層へのアプローチを強化する。また、利用率向上に向けて、制度の周知方法を見直し、保護者向け説明会やデジタル媒体を活用した広報活動を強化する。

◆奨学金支給対象者
(1)就学援助制度受給世帯
(2)令和6年度に日野市立小学校
および中学校に通う生徒
※(1)のいずれかに該当する生徒

◆奨学金申請期間
令和6年5月24日
～令和7年2月28日
※要領に準じて提出し、申請受付終了し
ます。お早めにお申し込みください。

◆奨学金利用期間
Ⅰ型奨学金：令和6年5月24日
～令和7年3月31日
Ⅱ型奨学金：令和6年6月20日
～令和7年3月31日

◆奨学金申請方法
※奨学金の利用申請は、「Ⅰ型奨学金800円」
および「Ⅱ型奨学金最大2万円」それぞれの専用
フォームでの申請となります。
※奨学金のお申し込みから利用までの流れの詳細は
HPをご覧ください。

◆ひのスポ！ひのカル！奨学金HP
<https://sites.google.com/ed/hino.jp/hinospo-hincul/scholarship/>

◆お問い合わせ先
日野市スポーツマーケティング株式会社
メール: cupon-hino@sdb-group.co.jp

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

学校施設の活用を促進し、体育施設に限らず食堂などの活用を進めることで、活動場所の拡充を図った。また、学校部活動で使用している冷房設備が整った学校体育施設で、校庭で実施する地域クラブ活動の参加

者が休憩をとるなど、学校との連携により地域スポーツクラブ活動を実施できる仕組みについても検討を進め、学校施設の効果的な活用と管理の在り方を模索した。

取組の成果

市内8校を地域クラブの拠点として活用し、卓球、バドミントン、ハンドボール、バスケットボールなどの活動を安定的に実施。学校体育館を中心に競技環境を整備し、指導団体との連携を強化することで、参加者の受け入れ体制を確立した。特にバドミントンは定員を超える応募があり、指導者を追加確保し受け入れ枠を40名に拡大する対応を実施。

学校施設の活用が進む一方で、今後のさらなる展開に向けて、公共施設の利用や、指導者の負担軽減を目的とした鍵管理の効率化など、ICTを活用した管理手法の導入も視野に入れ、地域クラブの運営を強化していく。



今後の課題と対応方針

今後の課題は、①学校以外の施設活用、②鍵管理の効率化、③受け入れ枠の拡大。現在、市内8校を拠点として活用できているが、さらなる参加者増加に対応するため、公共施設の利用可能性を検討する必要がある。また、指導者が毎回異なる競技では鍵の受け渡しが課題となっており、

ICTを活用した管理方法の改善が求められるほか、地域人材に直接管理してもらうなどアナログではあるが検討可能な課題も状況により把握することができた。これらの施策を実施し、地域クラブの運営をより柔軟かつ持続可能なものとし、より多くの生徒が安心して参加できる環境を整備する。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

市内8校を拠点に卓球、バドミントン、ハンドボール、バスケットボール（男子・3人制）など多様な競技を展開し、学校部活動にある種目のみならず、学校部活動にはない選択肢を提供する役割を果たした。各競技ごとに専門団体と連携し、指導体制の整備を進めた結果、指導の質が向上し、各種目で安定した参加者数を確保することができた。特にバドミントンでは66名の応募があり、指導者を追加確保して40名の受け入れを実現。3人制バスケットボールでは東京ヴェルディと連携し、試合観戦イベントを組み込み、競技理解の向上を図った。また、学校体育館を中心とした施設の活用が進み、地域クラブの運営基盤が整備された。

一方で、鍵管理の効率化や、さらなる受け入れ拡大のための学校外施設の活用など、今後の課題も浮かび上がった。ICTを活用した管理手法の導入や、公共施設の利用促進を進めることで、より多くの生徒が参加できる環境の整備を目指す。本事業を通じて、学校部活動の地域移行に向けた重要なステップを踏むことができ、今後のさらなる発展に向けた基盤が築かれた。

●成果の評価

本事業では、各競技ごとに専門団体との連携を強化し、指導の質の向上と参加者の安定確保に成功した。卓球では日野市体育協会と協力し、初心者・経験者向けの指導体制を整備。バドミントンでは、過去最多の応募があり、指導者を追加確保し、受け入れ枠を拡大。3人制バスケットボールでは、東京ヴェルディとの連携を強化し、対外試合や試合観戦イベントを実施することで競技の魅力を発信。学校施設を活用し、地域クラブ活動の定着を図るとともに、学校部活動では提供できなかった競技を展開し、生徒の選択肢を広げた。

企業版ふるさと納税の活用を視野に入れ、財源確保の検討も進行中。指導者の確保や施設の有効活用についても一定の成果を上げた。一方で、3人制バスケットボールの参加者が想定を下回ったことや、鍵管理の課題が浮上し、さらなる運営体制の整備が必要とされる。

●今後に向けて

今後の展開に向けて、①学校外施設の活用、②鍵管理・保管、③広報・参加促進策の強化が重要となる。現在、市内8校を拠点として活用しているが、参加者増加、種目数の拡大を見据え、公共施設の利用促進を検討する。

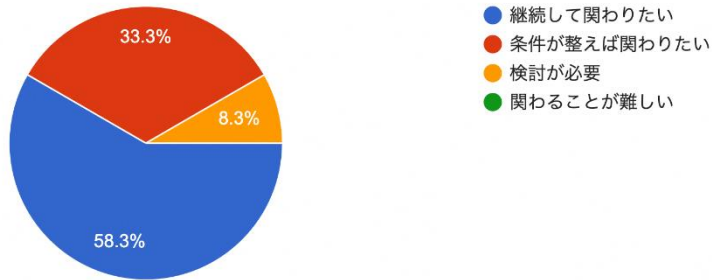
3人制バスケットボールなど指導者が頻繁に入れ替わる競技では、ICTを活用した鍵管理の効率化が求められる。3人制バスケットボールの認知度向上には、体験会の開催や競技の魅力を伝えるイベントの実施が必要。これらの施策を進め、地域クラブ活動の定着とさらなる発展を図る。

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

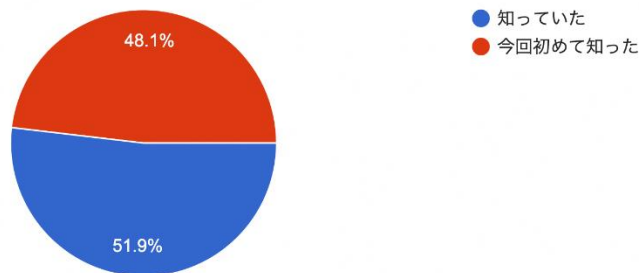
指導者向け

今後のひのスポ！ひのカル！への関わりについて教えてください
12件の回答



生徒向け

「ひのスポ！ひのカル！」のことを知っていましたか
54件の回答



●ステークホルダーの声

指導者

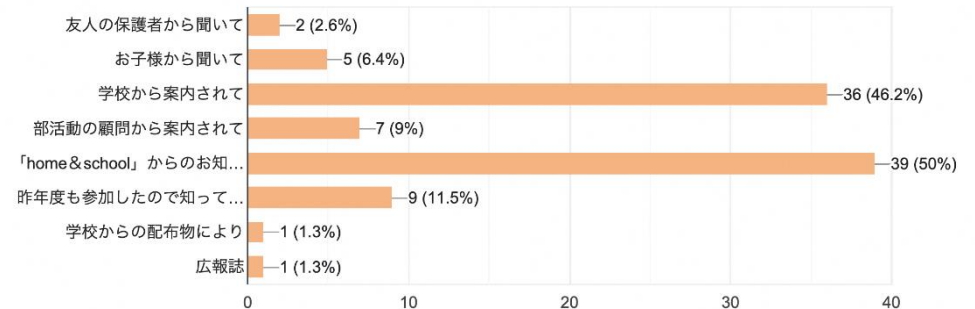
参加者が回を重ねるごとに積極的になり、他校の生徒とのコミュニケーションが増えた。指導を通じて、生徒が上達していく姿を見ることができ、やりがいを感じる。

保護者

指導者の質が高まれば、子どものやる気にもつながると考えている。文化系の活動も充実させてほしい。まだまだ運動部中心の印象がある。

保護者向け

参加したひのスポ！ひのカル！を知ったきっかけを教えてください（複数選択可）
78件の回答

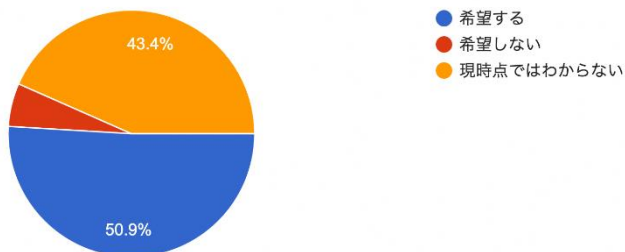


アンケート結果・広報資料

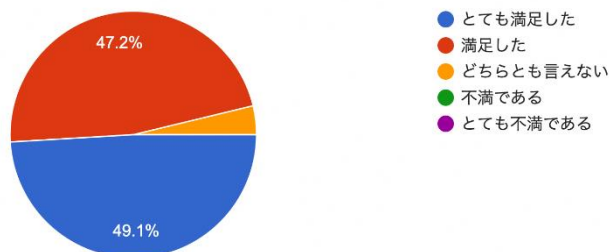
生徒向け実証後アンケート結果の前年度との比較

令和5年度

今後も、ひのスポ！ひのカル！への参加を希望しますか
53件の回答



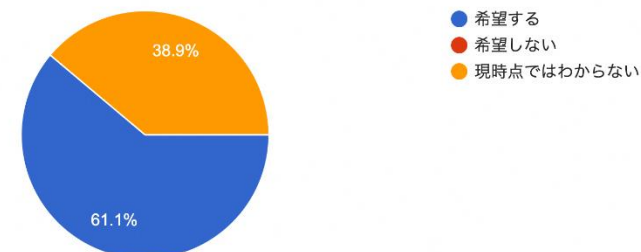
ひのスポ！ひのカル！の全体的な満足度を教えてください
53件の回答



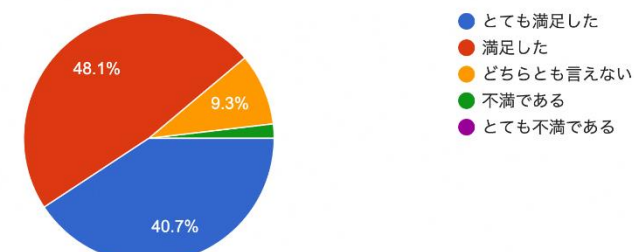
出典:【生徒様用】R5年度「ひのスポ！ひのカル！」終了後アンケート調査

令和6年度

今後も、ひのスポ！ひのカル！への参加を希望しますか
54件の回答



ひのスポ！ひのカル！の全体的な満足度を教えてください
54件の回答



出典:【生徒様用】R6年度「ひのスポ！ひのカル！」終了後アンケート調査

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



卓球



3人制バスケットボール



ハンドボール



バドミントン

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

関係者ヒアリング、調整

協議会設置、検討開始、地域クラブ活動お披露目実施

1. **ステークホルダー**
 - ・ 行政：日野市教育委員会
 - ・ 実施機関：スポーツデータバンク株式会社
 - ・ 学校関係者：市内中学校の校長会、教員
 - ・ 地域団体：地域の文化・スポーツ団体
 - ・ 保護者・生徒：直接の参加者・利用者
2. **経過**
 - ・ 協議会発足：地域クラブ活動の必要性を認識し、関係者との協議開始。
 - ・ キックオフイベント実施：関係者へコンセプトを説明し、初期のプログラム設計に向けた議論開始。
 - ・ 運営開始（4種目）：試験的に4種目で地域クラブ活動を実施し、フィードバックを収集。
3. **実施にあたって生じた課題**
 - ・ 学校との調整：従来の部活動との役割分担や協力体制の構築に時間がかかった。
 - ・ 指導者の確保：地域クラブに適した指導者の確保。
 - ・ 保護者の理解：新しい仕組みへの理解促進が必要。
4. **実施内容・工夫した点**
 - ・ 試験的導入：小規模で開始し、参加者の意見を集めながら改善。
 - ・ 関係団体との連携強化：スポーツ・文化団体と協力し、持続可能な運営モデルを模索。
 - ・ 初期啓発活動：学校・保護者向け説明会や情報発信を実施。

令和5年

学校現場との拠点校調整

ひのスポ！本格実施、対象者拡大、受益者負担開始、奨学金導入実証

1. **ステークホルダー**
 - ・ 令和4年度と同じ（ただし、協議会が本格的に機能し、関係者が増加）
2. **経過**
 - ・ 10種目に拡大：初年度の結果を受け、種目数を増やし、より多様な活動を提供。
 - ・ 奨学金制度の検討・実施：低所得層への支援策を検討し、受益者負担の軽減を模索。
 - ・ 連携プログラム開始：地域団体との協働を強化し、参加者の選択肢を拡充。
3. **実施にあたって生じた課題**
 - ・ 運営の持続可能性：事業の拡大に伴い、安定した運営資金の確保が課題。
 - ・ 指導者の質の向上：多様な活動を支える指導者の質を維持する必要性。
 - ・ 利用者の拡大：知名度向上が必要であり、参加者を増やすためのプロモーションが求められる。
4. **実施内容・工夫した点**
 - ・ 奨学金制度の導入：就学援助世帯を対象とした生徒に参加費補助を提供し、経済的な障壁を下げる。
 - ・ 活動時間の調整：学校部活動と調整しながら、円滑な運営を実現。
 - ・ 関係者の協力促進：企業版ふるさと納税の活用可能性を探り、資金確保策を検討。

令和6年

学校部活動との連携調整

推進計画の策定、運営団体の法人化検討

1. **ステークホルダー**
 - ・ 令和5年度と同じ
2. **経過**
 - ・ 18種目に拡大：さらに種目数を増やし、多様なニーズに対応。
 - ・ 「ひのスポ！ひのカル！」の運営ガイドライン策定：地域クラブの運営基準を明文化し、事業の安定化を図る。
 - ・ 奨学金制度の拡充：支給対象を増やし、より多くの生徒が活動できるよう調整。
3. **実施にあたって生じた課題**
 - ・ 運営体制の確立：法人化による統括組織の立ち上げと役割分担の整理が必要。
 - ・ 費用負担の見直し：持続可能な財源確保のため、参加費の引き上げが検討される。
 - ・ 地域団体の協力体制：さらなる地域クラブの発展には、より多くの関係団体との連携が不可欠。
4. **実施内容・工夫した点**
 - ・ 受益者負担の引き上げ：運営の持続可能性を高めるため、月会費制度の導入を検討。
 - ・ 企業版ふるさと納税の活用検討：令和7年度税制改正を踏まえ、企業からの寄付を活用準備を進め、新たな財源確保を目指す。
 - ・ 公式LINEの活用検討：情報発信の効率化、支払いリマインドの強化、問い合わせ対応の負担軽減を模索。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	令和5年度(実績)	令和6年度(実績)	令和7年度(予定)
学校部活動	維持・継続	維持・継続 (任意化の検討・一部実施)	休養日の拡大
I型	市内中学校8校 (学校体育施設)	市内中学校8校 (学校体育施設・食堂等)	市内中学校8校 (学校体育施設・食堂等)
II型	市内9プログラム	市内18プログラム	市内30プログラム程度
受益者負担	I型：保険料相当分 II型：保険料+参加費	I型：保険料相当分 II型：保険料+参加費	I型：年会費(保険料)+月会費 II型：保険料+参加費
低所得者対応	バウチャー実証事業 (「未来の教室」実証事業)	ひのスポ！ひのカル！奨学金実施 (市事業)	ひのスポ！ひのカル！奨学金拡充 (市事業)
運営主体	日野市教育委員会	日野市教育委員会	統括団体(法人設立)

プログラム

- II型(地域事業者活用)プログラムの拡充：連携事業者の基準づくり
- 事業周知の拡大(生徒・保護者・地域事業者)：学校部活動の改革(教員の働き方改革)との連動

受益者負担

- 参加費(II型は事業者が設定)の徴収：市側での費用徴収は困難
- 低所得者対象のバウチャー配布の実施：利用プログラムの拡充
- 企業版ふるさと納税等の寄付を活用：寄付の受入れ体制と運用方法の構築

運営主体

- 主体を教育委員会から統括団体(法人)へ移行：協議会の法人化
- ※教育委員会主体の運営は、運営管理・予算執行など運営上において不確定要素が多くなるため不向き